令和8年 第3回北九州市立図書館協議会 会議録

日　時：　令和８年８月２１日（金）　１４：００～１５：３５
場　所：　北九州市立松本清張記念館企画展示室

出席者
〇委員（会長他１１名、欠席委員３名）

北九州市立大学図書館長	浅羽　修丈（会長）
北九州市学校図書館協議会副会長	神村　恭子
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	中島　一生
（一社）北九州市ＰＴＡ協議会理事	中村　有希
（一社）北九州市保育所連盟副会長	伊賀良　昌宏
公募委員	尾田村　福太郎
北九州市社会教育委員	大河内　哲子
北九州市婦人団体協議会理事	柿内　よし子
北九州市障害福祉団体連絡協議会事務局長	森　　聖子
北九州児童文化連盟理事	八木　真恵
九州国際大学図書館長	山口　秋義
中小企業診断士	北嶋　知美

〇事務局（中央図書館長他６名）

中央図書館長	田尾　弘
中央図書館副館長　子ども図書館長	髙松　淳子
中央図書館運営企画課長	重岡　直之
中央図書館奉仕課長	佐藤　時子
中央図書館運営企画課庶務係長	倉田　武
中央図書館奉仕課奉仕係長	梶原　史織
中央図書館奉仕課資料係長	山口　典子

〇傍聴者　なし

会議次第

１　はじめに
２　新委員紹介
３　副会長選出
４　議事　（１）令和8年度(2026 年度)北九州市の図書館（図書館年報）について
（２）令和7年度(2025 年度)北九州市立図書館の事業評価について
５　その他

１ はじめに（中央図書館長挨拶）

日頃より市立図書館の運営にご理解、ご支援をいただき感謝申し上げます。新たに委員にご就任された方々には、本協議会へのご参画を心より歓迎いたします。

本日の協議会では、令和８年度の図書館年報の報告と、令和７年度の事業評価についてご協議いただきます。昨年度は、北九州市立図書館基本計画の初年度として、また中央図書館開館５０周年として様々な施策を展開してまいりました。この一年間の実績を振り返り、客観的な評価を行うことが、基本計画が目指す「学び、やすらぎ、つながる図書館」の実現へとつながります。委員の皆様からは、それぞれの専門的な立場から忌憚のないご意見を賜り、市民に親しまれる図書館づくりへ活かしていきたいと考えております。

２ 新委員紹介

事務局より、新委員紹介

３ 副会長選出

北九州市立図書館規則第 17 条に基づき、副会長の互選を行う。

副会長　　北九州市学校図書館協議会会長　上満　佳子

４ 議事

（１）令和８年度(2026 年度)北九州市立の図書館（図書館年報）について

令和８年度(2026 年度)北九州市立の図書館（図書館年報）について、資料に基づき、事務局から説明。

（委員）

本市が貸し出している図書は中間市が多いが、市民が利用するのは水巻町の図書館が多いという報告があった。水巻町の図書館の利用が多い理由などを教えていただきたい。

（事務局）

明確な理由はわからないが、地域的な位置関係や、水巻町の図書館がとても綺麗であることなどが影響しているのではないかと考えている。

（委員）

私自身も水巻町の図書館を利用することがあるが、蔵書数が充実しており、食事ができる場所もあるなど、そういった環境面あると思う。

（委員）

基本計画の基本目標２に「アクセシブルな資料の収集提供」が掲げられており、大活字本や録音図書、外国語書籍や やさしい日本語で書かれた書籍などに注力しているとのことだが、年報の統計を見るとその実績が数字で評価できない。取り組みの状況が見えやすくなるよう、集計の枠組みを追加してはいかがか。

（事務局）
ご指摘のとおり年報からは見えにくい状況になっているため、紙面が許す限り改善していきたい。
（会長）
数値化、見える化は必要であると考える。また、水巻町の事例についても、利用しやすい理由などを可能な限り調査し、今後の図書館の活性化のヒントとして活かしていくことを期待する。
（委員）
「北九州市電子図書館」が大人も楽しめるようにリニューアルされてから４か月が経過しているが、現在の貸出回数や登録者数などはどのような状況か。また、大人も使えるようになったという告知はどのように行っているか教えていただきたい。
（事務局）
蔵書数、貸出回数ともに非常に増えている。理由として、年度当初に市内の児童生徒へ改めてＩＤを配布して周知を行ったこと。また、大人も含めてリニューアルしたことを、市政だよりやホームページを含めて行った。
（委員）
素晴らしい取り組みと考える。
（会長）
今後さらに電子図書館が充実していくことを期待する。

（2）令和 7 年度(2025 年度)北九州市立図書館の事業評価について
令和 7 年度(2025 年度)北九州市立図書館の事業評価について、資料に基づき、事務局から説明。

＜基本目標１　学びを支え、豊かなときを創造する図書館について＞
（委員）
「市民の学びや課題解決のための講座」には時々見に行っているが、たくさんの方が参加されており、そこから図書館の利用が広がっていくと思うので継続していただけると嬉しい。講座の内容について、選び方、テーマの決め方を教えていただきたい。
（事務局）
アンケート等で市民の方がお困りになっていることや興味のあることを把握し、様々な声をいただきながら、知的好奇心を満足させられるようなテーマを各館で苦心して選んでいる。
（委員）
重点項目である「ビジネス支援講座」について、実際に講師を務められた委員がいらっしゃるので、報告をお願いしたい。

（委員）
昨年度２回開催した「スタートアップ支援セミナー」には４３名が参加し、うち８名が中小企業支援センターへの相談につながった。参加者は、やりたいことがあって気持ち的には固まっているが、ただ方法がわからないという感じ。相談への動きが早く、センターの伴走型支援を通じて最終的に３名の起業に至った。
（委員）
地域の図書館が「起業」という全く考えていなかったところへつながるというのは非常に興味深く、新しい窓口になれるすごい力だと感じる。
（委員）
「普段からなじみのある図書館だからこそ行ってみようと思えた」という声が非常に多く、図書館が起業の知識を獲得する場として非常にマッチしていたことに驚き、感動した。
（会長）
図書館が開催した講座の効果というものが、非常に具体的に伝わってきた報告をいただき感謝する。講座が利用者の人生の大きな転換点を迎えるきっかけづくりになっていると感じた。引き続きこのような講座を企画していただきたい。

＜基本目標２　誰もが利用しやすく、やすらげる図書館について＞
（委員）
学校現場の立場として、電子図書館のＩＤ再配布は、夏休みの読書推進において本当にありがたい。本校では、夏休み明けに推し本を紹介する取組みを行う。一方で、生徒へのアンケートで図書館を利用していない理由として「遠いから」という声があったので、地区図書館に相談して団体貸出を利用し、学校図書館内に分館のような形で本を置かせてもらっている。距離が遠くて利用しづらいという課題をクリアできるようなアイデア、例えば移動図書館が来て本が借りられたら楽しいなと思っている。
（事務局）
団体貸出制度の利用に感謝する。自動車文庫（移動図書館）については平成５年頃まで実施していたが、順次、市民センターの中に「ひまわり文庫」を設置し、現在は、図書館の本を配本している。一番身近な利用拠点は市民センターの「ひまわり文庫」だと思う。児童書も入れているので、案内していただければ、ありがたい。
（会長）
自動車文庫の実現は、予算や人員面等で難しいかと思うが、市民センターであれば、各地域にあるので、「ひまわり文庫」は利用しやすい良い取り組み。図書館との距離を理由に読書意欲を損なわないよう、いかに拾い上げるか、今後も環境整備が必要であると考える。
（委員）
私はよく中央図書館を利用するが、エントランスに「市民の声」のカードがあり、市民からのリクエストと図書館からの回答が書かれている。無理難題な要望も書かれていると思うが、どれくらいの市民の声が集まり、それに対してどれくらい改善ができているのか教えていただきたい。

（事務局）
詳細なデータは持ち合わせていないが、毎日のように多種多様なご意見をいただいている。ご要望に沿えないこともあり、実際の改善率は算出していないが、できるだけ市民の声にお答えできるよう日々努めている。

（委員）
どれくらいの声に回答できたか等の実績が可視化されれば、より良い図書館ができると思う。
（会長）
具体的な改善事例が一つでもあれば教えていただきたい。
（事務局）
例えば「予約した本が届くまでの日数が分かりにくい」というお声に対し、各館共通の作業プロセスを図で解説し、どれくらいの日数で取り寄せできるかを分かりやすく答える工夫などを行っている。
（委員）
外国語資料の収集に関して、昨年本市で外国人の転入超過が１，７２７人となっており、過去１０年間の傾向から今後も日本人と外国人の比率が変わっていくと予想され、大学でも留学生が増えている。外国人を対象とした居心地の良い空間づくりと、外国語資料の充実を引き続き取り組んでいただきたい。
（事務局）
昨年、日本語学校が留学生に図書館の使い方を教えたいとの話があり、案内した。やさしい日本語の本や日本語の絵本などを読んだり、皆さん、多種多様な形で図書館を活用されていた。引き続き、居心地のいい空間としてご利用いただければと考える。また、増加する外国籍の方に対応できるよう資料を充実させていきたいと考える。
（会長）
外国籍の方の人口比率が増えてくる中で、外国語資料の収集・提供は重要になると感じる。日本に来ても図書を通じて安らぎを持ち、学びにつながる図書館であり続けたいと非常によいご意見をいただいた。

＜基本目標３　多様な主体とつながり、共に成長する図書館について＞
（委員意見なし）

＜基本目標４　未来につなぐ図書館について＞
（委員）
基本目標４の「館内整理日の見直し」について詳細を教えていただきたい。
（事務局）
従来は月末に館内整理日を設けていたが、土日祝日に重なると利用者サービスが低下してしまうと考え、土日祝日は開館し、翌月の火曜日などに館内整理日を振り替え

るという運用に拡大した。土日祝日は利用者も多いので、開館して利用できるように努めたところである。

（委員）

職員にとっては休日に休めないという厳しい面もあるかと思うが、利用拡大につながったならありがたい。また、各館で行われる蔵書点検による長期休館も、時期が重ならないように工夫されていると感じた。

（事務局）

年に１回の蔵書点検については、全館の休館時期が重ならないよう綿密な計画を立て、必ず近くのどこかの図書館が開いているように工夫している。

（会長）

大学図書館でも利用者がよく利用する期間はできるだけ開館するように運営している。このような見直しで、少しでも多くの利用者が利用しやすい図書館を目指していただいていることに安心した。

委員の皆様からの貴重な意見に感謝する。

いただいた意見は事務局と整理し、図書館事業評価として報告することとする。

５ その他

中央図書館開館５０周年記念誌について、事務局から報告。